

求む！日の出正宗のラベル

長野商店の包装紙



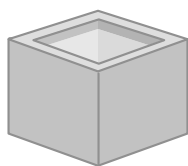
市指定有形文化財旧「長野商店」の正面に大阪堺の清酒「千歳」の金看板を掲げましたが、実は長野商店でも明治半ばから大正にかけて酒を造っていました。製品は清酒、濁酒、焼酎の3種で、確認された年間総醸造量232石、一升瓶にして約2万3千本余りです。工場は八幡町にあり、船で親船町の店まで運んで売っていました。本町側に醸造場を設けなかったのは、水が良くなかったからだという話が伝わっています。明治時代の石狩市(厚田区、浜益区を含む)では地酒のほか、大阪の酒、山形の酒、新潟の酒が移入され、料理屋、貸し座敷、漁場で大量に消費されていました。

明治半ばまでさかのぼることが可能ですが、詳しいことになるとまだまだ不明な点が多くあります。これまでの調査では、明治26年当時、石狩本町地区に長野商店を含め3軒の造り酒屋があつたことが確認されています。ところが最近、石狩市地方史研究会の新聞調査で、明治20年に石狩本町地区に9軒、明治21年に厚田区に5軒の造り酒屋があつたことが分かってきました。しかし、これらの酒屋がいつまで、どんな銘柄の酒を造っていたのかという点や、樽や瓶に張ったラベルがあつたのかどうかなど、細かな点は全く分かっていません。ただ、今回の長野商店の復元に当たり、長野家から寄贈された漆器の箱の中から明治期末あるいは大正期とみられる長野商店の包装紙がようやく見つかり、それに「日の出正宗醸造元」と書いてありました。これまでの記録では長野商店の酒の名前については具体的ではなく、この包装紙

は石狩市の酒造史に新たな1ページを加える大きな発見となりました。

長野商店の展示では、この「日の出正宗」という名前をヒントに、想像上のラベルを製作して一升瓶に張って展示しています。

包装紙が残っているなら、どこかの蔵の隅に「日の出正宗」のラベルの張った瓶あるいは一斗樽が密かに眠っているのではないかと期待しています。どなたか、「日の出正宗」のラベルを知りませんか！
どんな些細な情報でも提供してください。お待ちしております。
(石橋孝夫)



想像上の日の出正宗ラベル

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館

☎62-3711

✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp